

上位の政策名	政策目標4 科学技術の戦略的重点化	
施策名	施策目標4 - 1 基礎研究の推進	
主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 研究振興局基礎基盤研究課(課長: 川上 伸昭) (関係課) 研究振興局学術研究助成課(課長: 西阪 昇) / 学術機関課(課長: 吉川 晃)(主管課)	
基本目標及び達成目標	基本目標4 - 1 (基準年度: H13年度 達成年度: H17年度) 研究者の自由な発想に基づく基礎研究を幅広く、着実に、かつ持続的に推進し、人類の知的資産の拡充に貢献するとともに、世界最高水準の研究成果や、新たなブレークスルーをもたらす優れた研究成果を生み出す。	達成度合い又は進捗状況 概ね順調に進捗
	達成目標4 - 1 - 1 (基準年度: H13年度 達成年度: H17年度) 第2期科学技術基本計画の方針に沿って、基礎研究について一定の資源を確保する。	概ね順調に進捗
	達成目標4 - 1 - 2 (基準年度: H13年度 達成年度: H17年度) 平成17年度までに、第2期科学技術基本計画の競争的資金の倍増を目指すとの方針に沿って、基礎研究を推進するための競争的資金(科学研究費補助金及び戦略的創造研究推進事業)の拡充に努める。	想定したとおりには進捗していない
	達成目標4 - 1 - 3 (基準年度: H13年度 達成年度: H17年度) 優れた研究成果が生み出され活用されるよう、間接経費の拡充等、競争的研究資金の制度改革を進める。	概ね順調に進捗
現状の分析と今後の課題	各達成目標の達成度合い(達成年度が到来した達成目標については総括) 達成目標4 - 1 - 1 文部科学省における科学技術関連経費に占める基礎研究関連予算(競争的資金を含まない)の割合をみると、最近5カ年において一定割合を確保しており、概ね順調に推移していると言える。 達成目標4 - 1 - 2 平成14年度における文部科学省関連の競争的資金は265,589(万円)と、平成12年度比1.1倍増となり、第2期科学技術基本計画に基づく平成13年度からの5年間で倍増という目標に対して、想定したとおりに進捗しているとは言えない。 達成目標4 - 1 - 3 競争的資金制度についてはその効果が充分発揮できるよう各制度とも改革に努めている。 科学技術振興事業団で行う戦略的基礎研究推進事業、若手個人研究推進事業等の基礎研究推進事業については、社会・経済ニーズに対応した基礎研究を推進するという事業の目的を明確化するため、これらの事業を再編し、平成14年度に新たに「戦略的創造研究推進事業」を創設したところである。なお、間接経費については、直接研究費の約3%の予算措置を行ったところであり、今後さらなる拡充に努めていく。 科学研究費補助金については、次代を担う若手研究者の研究の一層の推進を図るため、研究種目に「若手研究」を新設し、そのうち比較的規模の大きい研究について、既に13年度に間接経費を措置した研究種目に加えて、新たに間接経費を措置した。 このように、各制度ともそれぞれの趣旨に応じた取り組みを行っており、概ね順調に進捗していると言える。	
	基本目標達成に向けての進捗状況 平成14年度の基本目標の達成度合いについては、以下のように、例えば大学共同利用機関、大学付置研究所等において優れた研究成果が生み出されていることにもあるように、概ね順調に進捗していると言える。 (平成14年度に発表した世界的研究成果の例) ・国立天文台のすばる望遠鏡において、これまで観測された中で最も遠い、128億2760万光年のかなたの銀河を捉えることに成功。 ・高エネルギー加速器研究機構の電子・陽電子衝突型加速器(Bファクトリー)において、「CP対称性の破れ」のメカニズムの解明につながる成果として、ごく稀に起こるとされるB中間子の新しい崩壊現象を観測したことを発表。 ・核融合科学研究所の大型ヘリカル装置において、ヘリカル装置としては世界最高値のイオン温度(8100万度)を実現。	

<p>今後の課題</p>	<p>第2期科学技術基本計画では、研究者の研究費の選択の幅と自由度を拡大し、競争的な研究開発環境の形成に貢献する競争的資金を引き続き拡充し、第2期基本計画の期間中に競争的資金の倍増を目指すとしており、競争的研究資金のさらなる拡充が今後の課題。</p>					
<p>評価結果の15年度以降の政策への反映方針 (政策評価法第11条に基づく総務大臣への通知事項)</p>	<p>平成16年度概算要求にあたっては、競争的資金倍増の目標を目指して、各競争的資金制度における予算のより一層の重点的拡充に取り組むこととするとともに、その効果を最大限に引き出すためにも、競争的資金の制度の諸改革に引き続き努めていく。また、その他にも、大学・大学共同利用機関等における基礎研究の推進に必要な資源の確保に引き続き努めていく。</p>					
<p>指標</p>	<p>指標名</p>	<p>10</p>	<p>11</p>	<p>12</p>	<p>13</p>	<p>14</p>
	<p>科学技術関連経費(文部科学省)に占める基礎研究関連予算(競争的研究資金は含まない)の割合(%) (達成目標4-1-1-関係)</p>	<p>3.0</p>	<p>2.9</p>	<p>2.8</p>	<p>2.9</p>	<p>2.8</p>
	<p>競争的研究資金予算額(文部科学省分)(百万円)(達成目標4-1-2関係)</p>	<p>193,820</p>	<p>216,407</p>	<p>240,264</p>	<p>255,897</p>	<p>265,589</p>
	<p>科学技術関連経費(文部科学省)に占める基礎研究推進のための競争的資金(%) (達成目標4-1-2関係)</p>	<p>7.1</p>	<p>7.6</p>	<p>8.2</p>	<p>9.0</p>	<p>9.4</p>
<p>備考</p>						

施策目標4-1 基礎研究の推進

背景

研究者の自由な発想に基づく基礎研究は、我が国の持続的な経済・社会活動の発展を支える知の源泉であり、第2期科学技術基本計画においても、幅広く、着実に、かつ持続的に推進していくことが謳われている。

<達成目標4-1-1>
基礎研究にかかる一定の
資源の確保

<達成目標4-1-2>
競争的研究資金の拡充
・科学研究費補助金
・戦略的創造研究推進事業 等

<達成目標4-1-3>
競争的資金制度改革
・間接経費の拡充
・研究計画重視の審査の実施
・任期付き任用の幅広い導入

適切な事前評価・中間評価

研究環境の整備

人類の知的資産の拡充への貢献
世界最高水準の研究成果の輩出
新たなブレークスルーをもたらす優れた研究成果の輩出